

里山を守り、活用する。

丹波市は総面積の75%が森林に囲まれており、この雄大な自然と共存していくために欠かせないのが、里山を守る活動です。今回は、管理の行き届いていない山をなくすため、自分たちの力で里山の環境保全を行い、木の伐採から有効活用を実践している、平松区森林愛好会の皆さんに話を伺いました。

☎ 農林整備課（春日庁舎内） ☎ 88 - 5029

自分たちができる森林整備を実践

管理の行き届いていない暗い山を見て、誰も近づきたいとは思いません。何かきっかけが必要だと思いました。そんなとき、平成25年に地域住民による森林整備に対する補助金があることを知り、その後すぐに組織を立ち上げました。

平松区森林愛好会では現在21人で森林整備について4つの方針「整備・活用・育成・管理」を実践しています。木の伐採は非常に危険を伴う作業です。安全面に十分に配慮し、作業をする人同士で確認しあいながら進めています。最初は全員が伐採方法

を教わる立場でしたが、今では参加者同士で意見交換しながら安全な切り方を実践できるようになりました。



■平松区森林愛好会の皆さん



■チェーンソー講習会にて森林整備の担い手を育成



■伐採した直径80cmを超える大径木を切断

木を薪や玩具に利用

安全安心で住みよい森づくりには、木の伐採にとどまらず、その木材を「活用」することが大切です。例えば、伐採した木を、薪やシイタケのホダ木に使ったり、遊具や木製玩具として子ども会でも利用したりすることで、伐採した木を有効利用しています。



■シイタケのホダ木に活用



■クラフト素材として地域で活用



■竹チップを製造している様子

竹林整備で伐採した竹の有効活用

平松区森林愛好会では、スギやヒノキの山に侵入してきた竹林の除去をはじめ、管理の行き届いていない放置竹林の整備などの様々な活動もしています。

切った竹は、地域行事の際に竹馬や流しそうめんなどに活用してきましたが、最近では竹チップにして発酵させ、有機肥料として農業でも活用しています。

森林は農業と密接に関わっています。今後は、農業と林業を組み合わせ、循環利用する手法の実践を目指します。

丹波の木を木育グッズに活用

「木育」とは、幼児期から木に触れ、そのぬくもりを肌で感じることで「豊かなくらしづくり」「社会づくり」「森づくり」に貢献する意識づくりを目指すものです。

令和3年度より始まった「ハッピーバーズ応援ギフト事業」の一環で新生児の出産祝いに木育グッズをプレゼントしています。この木育グッズにも丹波の木が使われています。新生児が生まれた地の木ということもあり、その暖かみを肌で感じてもらえるグッズとなっています。



森林整備跡地にコテージを設置



森林整備のため、市内では年間250haほどの間伐が行われていますが、整備をした後の山に入る機会はそれほど多くありません。

市では、多くの方が山に関心をもてるきっかけづくりを推進していますが、市内にある株式会社森のわは、株式会社神防社（神戸市）と連携し、森林整備跡地を効果的に活用する新たな取り組みを実践されています。

間伐により生まれた空間に複数棟のコテージを設置することで、リモートワークやレクリエーションの場として活用することができます。丹波の木でできたこのコテージは、次の間伐時期まで約10年間利用することができます。